

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	和泉市新庁舎整備工事	階数	地上7F
建設地	大阪府和泉市府中町二丁目	構造	S造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022/3/31 予定	評価の実施日	2019/10/17
敷地面積	13,617 m <sup>2</sup>	作成者	今川 与志雄
建築面積	2,189 m <sup>2</sup>	確認日	2019/12/20
延床面積	11,992 m <sup>2</sup>	確認者	北田 久晴



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 3.9**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.9

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 4.1

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.7

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.1

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	耐用年数高い材料を使用し、ライフサイクルコストを低減している。また植栽を地上に積極的にしている。	その他 特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	開口部遮音性能 T-2。壁と天井の二面に吸音材を使用している。昼光率: 5.46%。そして、照度は500 lx以上。また、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 周辺のまちなみや景観に対して、標準以上の配慮が行われている。内装材にいずれもを使用している。
<b>LR1 エネルギー</b>	外皮性能が高い。BEIm 0.67。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して73%。交通負荷や廃棄物処理負荷抑制に取り組んでいる。
<b>Q2 サービス性能</b>	免震建物であり、耐用年数が高い内装仕上げ材と給排水配管材を使用している。そして事務室の天井高: 2.7m、階高は3.9m以上。また、壁長さ比率: 0.15。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	節水コマを使用している。そして雨水利用システムを導入している。また、吹付け硬質ウレタンフォームA種1を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0127

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	和泉市新庁舎整備工事							
		建設地	大阪府和泉市府中町二丁目							
		用途/区分	事務所							
【評価結果】		CASBEE 総合評価					S			
①	CO2削減					4				
②	みどり・ヒート アイランド対策					3				
③	建物の断熱性					4				
④	エネルギー削減					4				
⑤	自然エネルギー直接利用					○				
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
エネルギー消費量の報告						報告しない				
【評価項目】										
項目		評価内容				スコア	評価			
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.0	4			
② みどり・ヒートアイランド対策										
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3			
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0				
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0				
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.1	4			
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.3	4			
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○			
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない			
その他										
		技術の名称			考慮事項					
先進的技術の導入										
特に配慮した事項		太陽光発電システム導入している。発電容量41.65kW。								